



## 【様々な戦いに対する防備と勝利④—平和の福音の備え—】

説教者：鄭南哲牧師

聖書箇所：エペソ人への手紙6章10-15節/暗唱聖句：コロサイ人への手紙1章20節(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!一週間もみんなお元気でしたか。お変わりはありませんか。昨日は一日中ずっと春の雨が降って来た暖かい春の一日でしたが、願わくは、今週一週間3月の残りとは始まる4月中にも、さらなる神の恵みの雨が毎日降り注がれ、生かされ、強められるように切にお祈り申し上げます!

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!私たちは最近様々な霊的な戦いにおいてどう自分を守り、勝利して生けるのかその原則を聖書を通して連続で学ばされています。先週一週間様々な霊的な戦いにおいていかがでしたか。よく勝ち続けましたか。それとも負け続けて来た一週間でしたか。人間の戦争や戦いにおいては、停戦や休戦はあるけれども、この霊的な戦いにおいてはその真ん中はありません。日々戦い続けて攻めて来るため、勝てるか、負けるかどちらかしかないのです。

今日も、これからもサタンはほえたける獅子のように食い尽くすものを捜し求めながら、歩き回っていると聖書は教えています。もう一度、ペテロの手紙第一(1Peter)5章8—9節を読んで見ましょう。

「8身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。9堅く信仰に立って、この悪魔に対抗しなさい。ご存じのように、世界中で、あなたがたの兄弟たちが同じ苦難を通して来ているのです。」

しかし、いくらサタンやもろもろの悪霊どもが襲い、攻めて来ても不安になったら、恐れる必要はありません。神の打ち勝つ力と勝利が保証されているからです。自分が守られ、いつも打ち破り、勝利出来る原則、勝利の秘訣を神様は聖書を通して明確に教えて下さっているからです。それは何ですか。

「神のすべての武具(エペソ人への手紙6章14—17節)」の6つの軍人として必ず身に着けるべき6つの基本全身武具であることが分かります。すなわち、真理の帯・正義の胸当て・平和の福音の備え・信仰の大盾・救いのかぶと・聖霊の剣であります。すでに、真理の帯と正義の胸当てについて学びましたが、堅く立って、対抗しつつける準備はちゃんと整っているでしょうか。みなさんは確実に神のすべての武具を身に着けている状態でしょうか。

私とみなさんの前に今日も、これからもずっとこの霊的な戦いが襲って来るかも知れませんが、我らは自身の力ではなく、神のすべての武具を用いて、自分を守り、戦い続けながら、すでに打ち勝っておられたイエスキリストの力と勝利が自身の力と勝利となれると信じます。

軍人が武具を身に着けるといのは一番基本の基本であり、目の前に始まろうとしている様々な戦いと勝利の為に、一番先に備えるべき事だと申しました。神が我らに霊的な戦いにおいても、何か特別なもの、新しい何かを望んでおられるのではなく、イエスキリストを中心とした信仰の基本!そのものをしっかり確かめ、いつも自身の身に、人生に握りしめて置く、着けて置くべきことを教えて下さっていることが分かりました。

今日は神様のすべての全身武具の中、真理の帯、正義の胸当てに続き、三つ目である聖書の本文エペソ人への手紙6章15節に書かれている「足には平和の福音の備えをはきなさい。」について共に学んで行きましょう。

### <1. ローマ軍の皮の靴(カリガ(Caliga))>

パウロの当時、中東やヨーロッパの人々は、大体サンダル(sandal)みたいな形の履く物だったので、今日で感覚で、あってもなくてもそれほどそんなに大した物ないと思う傾向があるかも知れません。しかし、当時の軍人の戦いと言えば、主に剣や槍などで戦う白兵(はくへい)戦だったので、両足を地面に堅く立て体を維持しておかなければ、戦い続けられない勝敗にかかわっていたとても足の部分は重要でした。当時2世紀ローマ軍がはいた履き物を、「カリガ(Caliga)、一足なので、複数でカリガエ(caligae)」だと呼ばれました。「堅い・丈夫だ」という「callus」から由来された、他国の軍人の履く物とは違いました。

ローマ軍が作って履いたカリガは、容易く破れないように革で作られ、足から容易く脱げられように、足がしっかりカリガに密

着され、固定出来るように、何枚の革のひもで繋がられていました。それだけではありません。足を守るだけではなく、足でも敵に向かって攻撃出来るように、カリガの裏側には、野球シューズのスパイクみたいに、鉄で作られたリベットみたいな金具(かなぐ)まで打たれていたのです。滑らず、泥(どろ)だらけの土が多かった当時、すばやく動きながら、攻撃も戦い続けることも可能でした。

ですから、このように靴をちゃんと備えて置くことが当時ローマ軍人にとってはとても大切なことでした。

ある歴史家はローマ軍隊があれだけ勝利を収め続け、成功し続けたのは彼らが履いたこのカリガ(Caliga)のような靴のためだったという主張もあります。他の人々からはそんなに見た目的に、戦いにおいてローマ軍人の武装の中そんなに大したことだとは思わなかったかも知れませんが、まさに、この靴をはいていたため、戦い続け勝利を勝ち取り続けることが出来た大きな原因の一つとなったという事実は私たちにいろいろと考えさせられます。

当時ローマ軍隊が他の国々の軍隊より、強かった理由の一つがまさしく他の国の軍人たちが入ってなかったこのカリガという靴をはくことにより、例え、険しい地形でのあっても、泥だらけの土地であつてもいつでも勇敢に戦い続け、打ち勝つことが出来た決して欠かせないものであつたことが分かります。

## <2. 平和の福音の備えとは?>

### <① 福音とは?>

それでは、まずこれほど大切な履き物を、神のすべての武具として、「平和の福音の備え」だと教えて下さっています。

まず、この福音(Good news:(神による)良い知らせ)とは何ですか。それはとても簡単で、単純です。それは神の御子イエスキリストが神の栄光の御座を捨て、実際この世に来られ、人類の罪、私たちの罪を代わりに背負って苦しめられ、十字架で死なれるまでご自身を我らのために与えて下さいました。イエスキリストは十字架で終わったのではなく、預言の通り三日後によみがえられ、そして昇天されたイエスキリストは裁きのために再び来られるまで約束されておられます。

神は、だれでも、心からその御子イエスキリストの愛を受け入れ、信じて、自分の罪を心から言い表し、悔い改める人々にすべての罪を赦し、救われる！そして、罪によって切れていた神様との関係が回復され、和解されて、日々神の平安と平和を頂けることができるということが、福音です。

使徒ヘテロは福音というのとはどんな内容について、みんなの前で明らかに証して下さっています。

使徒の働き10章36、38—43節「36神は、イスラエルの子らにみことばを送り、**イエス・キリストによって平和の福音**を宣べ伝えられました。このイエス・キリストはすべての人の主です。38それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒されました。それは神がイエスとともにおられたからです。39私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムで行われた、すべてのことの証人です。人々はこのイエスを木にかけて殺しましたが、40神はこの方を三日目によみがえらせ、現(あらわ)れさせて下さいました。41私たちは、イエスが死者の中からよみがえられた後、一緒に食べたり飲んだりしました。42そして**イエスは、ご自分が、生きている者と死んだ者のさばき主として**神が定めた方であることを、人々に宣べ伝え、証しするように、私たちに命じられました。43預言者たちもみな**イエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられる**と、証してあります。」

### <② イエスキリストを信じる信仰によって訪れる神の平和の福音>

ここで、平和の福音の中「平和」という言葉は、(ギリシャ語原語聖書では:エイレイネ(εἰρήνης)・Peace(聖書では平和あるいは、平安と訳されています))であります。

このエイレイネの平和は、単なるこの世界の中で争いや戦いのないようなものではありません。実は、この世が与えてくれる平和というのは、ある歴史家がこう指摘したように、つまり、人類歴史の中約3千5百年前から今日まで、全世界が平和だったのと言えるのは、たったの286年間しかなかったと言われているように、この世の平和という状況は一時的なものに過ぎなく、完全にもなれないかも知れません。しかし、ここでエイレイネの平和はこの世から、人からのものではなく、「神の平和」、具体的には、イエスキリストが信じる全ての人々に約束され与えられる神の平安と言います。

イエス様は十字架につけられる前夜、弟子たちに御霊を約束しながら平安の祝福を与えます。ヨハネの福音書14章27節で

す。「わたしはあなたがたに平安(平和)を残します。わたしの平安(平和)を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんでは(恐れては)なりません。」

そして、死に打ち勝ってよみがえられた主イエス・キリストはイエスキリストが十字架に付けられてから、自分たちの身を隠し、扉を閉じ、鍵をかけ、部屋の中に閉じ籠もって、恐れと不安の中いたその弟子たちの真ん中にお出でくださいました。そして「平安(平和)があなたがたにあるように！」と神の平和を伝え、語ってくださいました。

**ヨハネの福音書20章19—21節**「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。『平安(平和)があなたがたにあるように。』20こう言って、イエスは手と脇腹(わきばら)を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。21イエスは再び彼らに言われた。『平安(平和)があなたがたにあるように、わたしもあなたがたを遣わします。』」

イエスキリストは信じるすべての者に罪からの赦しと永遠の命を与え、神から離れ、神との関係が切れていた我らを回復させ、神の平和を頂き、その関係の中で生きる者にさせて下さるお方であります。

**ローマ人への手紙5章1節**「こうして、私たちは**信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和**を持っています。」

**コロサイ人への手紙1章20節**「その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、**地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださったからです。**」

**エペソ人への手紙2章14節・16—17節**「**実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において隔(へだ)ての壁である敵意(てきい)を打ち壊し、16二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。17また、キリストは来て、遠くにいたあなたがたに平和を、また近くにいた人々にも平和を福音として伝えられました。**」

平和の福音をちゃんと備えるように教えて下さっています。今日人々が神様の平和を味わえずに生きている理由はこイエスキリストによる平和の福音に預かっていないからであることが分かります。「イエスキリストを通して、神の平和があなたがたにあるますように！」と言う意味として「シャローム！」挨拶を左右前後ろの方々にかわしましよ。

### **<3. 注意点: 自分の罪の靴をぬいで新しいイエスキリストの福音の靴に履き替える必要がある>**

しかし、このイエスキリストによる神の福音をしっかり自身に履くためには、**まず、今まで自分の過去と現在の汚い罪の履いている履き物を大胆にぬぐ必要があります。そして、神が備えて下さったこのイエスキリストの平和の福音という新しい靴で履き替えなければなりません。**今までの自分自身の慣れて来た汚い、汚れた罪の履き物をちゃんとぬぐいだし、処分してないため、新しい神の平和の福音の備えを履くことが壽著しながら、なかなか履き替えることが出来ず、神の平和の福音の備えを实际味わい、体験することも出来ないのです。あるクリスチャンの方は、すでに神の新しい平和の福音の備えに履き替えたのにも関わらず、以前の自分の過去の古い自分、良くないことを知ってながらも、汚れ捨てた以前の罪の履き物をにまた履き替えようとしたり、戻したりする愚かな悪循環を繰り返しつつあるので、神の平和を頂いて以来、以前の古い自分の姿からなかなか変わってないとても残念な人もいられるかも知れません。みなさんは今、いかがでしょうか。どんな状態でしょうか。

**出エジプト記3章**でモーセはホレブ山のある木の炎(ほのお)で臨まれ、モーセを呼んで下さる神様に近づこうとした時、神様はモーセにこう命じられました。**5節【神は仰せられた。「ここに近づいてはならない。あなたの履き物(足のくつ:新改訳3版)を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である。】**と命じて下さいました。自分がずっと持って来た、罪の行いと生き方、絶えず人を比べたり、自分がいつも正しいと思い込んでいる高慢な考え、自分のプライド、エジプトの王子という身分として自分が願えば何でも手に入れることが出来るかのように自分が神かのように思い込んでいたところなどなど過去の古い全てを神の前でまず、脱いで捨て、ちゃんと処理しなければなりませんでした。



愛するみなさん！ここでなぜ神様は神様に近づこうとするモーセに履いていた自身の足の履き物をぬげ！と命令されたと思いますか。創世記を読んで見れば、始めの人だったアダムとエバが神様と交わりながら、罪を知らず、犯さなかった時には何も着る服も、履く靴もありませんでした。別にそういうものがなくても、何も恥ずかしく、不便に思われなかったはずでしょう。

しかし、人が自分たちの目に見える通りに、願う通りに人の欲に従ってしまい、神様の御言葉に逆らって人が罪を犯してしまったから以後、人は恥を知ることになり、服を着初めました。またエデンの園から追い出され、呪われた地で歩き続けるために、靴みたいな足を守る履き物作り上げ、使い始めたのではないかと思われま。

ですから、罪人である人が神様に近づぐために自分の古い靴！つまり、今まで神の御前で犯して来た古い自身、今までのすべての罪、神を離れて自分勝手に歩んだ生き方、諦めてない自分のすべての欲望、自分がいつも正しいと思い込んでいた自身の価値観と自己義などを神様の御前ですべてぬぐい捨てなければならないという神の御心だったのではないのでしょうか。神に近づきたい、神を信じ頼りたいと願う者、神の助けを頂き、もう一度新たな人生を歩みたいと願うすべての者は、モーセに命じて下さったこの命令に従わなければなりません。新しいぶどう酒を蓄えたいなら、漏れたり、古い袋では破れてしまうしかないで、それにふさわしく新しい革袋を備えなければならないと同じでしょう。

コロサイ人への手紙3章8節-10節では「しかし今は、これらすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、ののしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを捨てなさい。9互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いと一緒に脱ぎ捨てて、10新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。」

この御言葉はまさしく自分が履いた罪の古い靴をちゃんと脱ぎ捨てて、イエスキリストによる新しい靴を履いた者に向かって与えられる御言葉なのです。神様は今日も私たちに罪深いこの世の中続けられている霊的戦い続け、勝利するために“神の平和の福音の備えを履く”とためには、**私たちはまず、自分が今まで履いて来た自分の古い靴をちゃんと脱ぎ捨ててから、ようやく、履き替えることが出来る順番を大切に覚えておきましょう。**

#### <4. すべての人に神の平和と救いをもたらすための福音を宣べ伝える使命 — moving & preaching The Gospel >

それでは、神様はどうしてこの平和の福音をくつにたとえて言われたのでしょうか。

それは、軍人にとって靴は足を守る程度だけではなく、意外にもっと大切な意味があったからです。

みなさんもよくご存じのように、足が怪我したり、骨折してしまうと、しっかり立つことも、長く移動し続けることも、素早く動くことも出来なくなるため、勝つことはともかく、十分に対抗し、戦い続けることが出来なくなるでしょう。結局、とんな時にも、どこでも戦い続け、勝利を治め続けて行くために、その履き物がとても重要になるのに間違いありません！

今日悪魔は神を信じる人々の足を縛ろうと、必死に止めさせようとしています。なぜなら、イエスキリストを信じる者たちが、ずっと過去に捕らわれて過去の自身から進まず変わらないようにするために、神の救いと平和の福音を伝えないように、広がらないようにするためです。いくらどんなに完全に武装されていたとしても足に足かせがつけられているなら、軍人は自由に動けなくなり、戦うことが出来なくなります。

ですから私たちが神様の軍人としていつでも自由に動き、対抗し戦うためには福音の備えられた靴を履かなければなりません。人類の歴史の中、先にイエスキリストを信じたこのイエスキリストの平和の福音の靴を履き、エルサレムから、ユダヤ、サマリア、そして地の果てまでこのイエスキリストの救いの平和の福音を述べ伝えて下さったゆえに、今日我々にまでもこのキリストの救いと平和が届くようになったことを忘れてはいけません。そして、我らは今も、この町の中で、日本で、世界の中で私たちを通して伝えられるこの神の平和の福音を切に待ち望んでいる人々が今も多く待っていることもいつも覚えなければなりません。

今日の御言葉を通して悟られることは福音を熱心に伝えれば伝えるほど、神の御国の平和と救いが広がり、神の喜びがあふれ、伝える我らはさらに強められ、神の力を体験する秘訣であります。

このイエスキリストの福音を分かち合い伝えることはほかの人々を生かすのみならず、自分自身をも生かす道であるのです。愛するみなさん、このように、神の平和の福音に熱心な教会の信徒たちは互いに争ったり、試練と試みに陥いて倒れることはめったにありません。神と人々の平和の関係を保つことになります。

現代のある教会はこの平和の福音を分かち合い、伝えるのに熱心にしようとしません。それどころか、神様を信じていると言いながら、この福音を分かち合ったり、伝えることを面倒くさく思ったり、恥ずかしく思う場合も少なくありません。

今日時々(ときどき)神の力あるイエスキリストの救いの福音が教会の中だけに閉じ込められ、教会の外に流されないようにとむしろ信徒たちが止めているような印象があるのはどうしてでしょうか。ほかの教会はどうであれ、私たちクリスチャンプレイズチャーチは続けてこのイエスキリストの平和の福音、この神の救いの福音を共にしっかりと備え履き、周り人々に神の平和が訪れるように、神の救いを頂けるように共に前進し、伝えて行けるように切にお祈り申し上げます。

**テモテ人への手紙第二4章2節**を読んで見ましょう。**【みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。】**

ルカの福音書10章17節-20節で見ると、我々が神の平和の福音を宣べ伝える時、分かち合った時どんなことが起こるのかイエス様に命じられて、神の福音を宣べ伝えて帰って来た12人の弟子たちはこう証して下さっています。

ルカの福音書10章17節【17さて、七十人が喜んで帰って来て言った。「主よ。あなたの御名を用いると、悪霊どもでさえ**私たちに服従します**。18イエスは彼らに言われた。「**サタンが稲妻(いなずま)のように天から落ちるのを、わたしは見ました**。19確かにわたしはあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、**敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授(さず)けました**。ですから、**あなたがたに害を加えるものは何一つありません**。」20しかし、悪霊どもがあなたがたに服従することを、喜ぶのではなく、**あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい**。】

ここで、悪霊どもがイエス様の弟子たちに服従し**稲妻(いなずま)のように天から落ちられ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授(さず)けられた**のはいつでしたか。いつこのような神の力強い勝利を経験しましたか。

**平和の福音の備えをはいて町中の人々に神の救いの福音を伝えたその時でした！**イエス様の弟子たちは神の救いの福音、平和の福音を分かち合い、伝えているうちに、敵のサタンも、悪霊どものすべての力を打ち破り、服従させ、イエスキリストの力と権威を**実際体験することができたのです！**

みなさんはイエス様を心から信じていますか。イエスキリストの救いの福音、平和の福音の備えをはいているのであれば、自分だけにとどまらず、その福音を周りに分け与える時に、だれより、我ら自分自身が強めえられ、神の力ある勝利する人生になれると信じます！！

愛するみなさんは今神様の御心を知っていますか。罪人に対する御心、失われた羊を思う御心、主のご自分の民に対する御心は何でしょうか。**ルカの福音書15章4節、7節【あなたがたのうちのだれかが羊を百匹持っていて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。7節あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。】**

## < 結論 >

最後に使徒パウロが召される前、自分の人生を振り替えてみながら告白した手紙を読んで終わりたいですが、どなたが**テモテ人への手紙第二4章6-8節**「私はすでに注ぎのささげ物となっています。私が世を去る時が来ました。7**私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました**。8あとは、**義の栄冠が私のために用意されているだけです**。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けて下さいます。私だけでなく、**主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです**。」アーメン！

使徒パウロは召される前、自分はいまや注ぎの供え物となると告白しました。つまり、自分の持っている知識、経験、能力、命、人生すべてをキリストの福音の宣べ伝えるために、すべてを注ぎ出したと証しています。

私たちも一人のクリスチャンとして、イエスキリストを信じる信仰によって救われ、神の平和を頂き、体験している者として、パウロのような神の平和の福音を、パウロのようにこの日本の地において一生涯主の救いの福音をのべ伝え、用いられる者になりたいと祈り、用いられる私とみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

まだ一度もイエスキリストの救いの福音、神の平和のこの福音を聞いたことがないまま、過去の古い自分の中で苦しみさまよっている日本の多くの尊い魂に、最後までこの福音を語った後、消え去る火種のようになることを懇切な祈ります。人生を生きていく中神様の福音のために自分たちのすべてをささげ続けたあげく神様に“**神様、これ以上ささげることはありません。**”と告白することができる者になりたいです。これからこの神の平和の福音を備え、イエスキリストの救いの福音をしっかりと保って分かち合いながら、神の勝利を味わう全クリスチャンプレイズチャーチの神の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!

例)1200年代、ヨーロッパ全土は十字軍戦争が起きようとしている戦争の直前のざわめく雰囲気その場でした。

そのときヨーロッパに自称神様を信じていると言っている人たちがモスレムにたいする憎しみと恐ろしいメッセージを言いちらかしました。この風潮によって人たちの心には‘イスラムを信じていたたちを殺そう、エルサレムを奪還するためにはモスレムたちを全滅しなければならない。’という憎しみと憎悪の心が全ヨーロッパを支配していた時代でした。結局、その憎しみは十字軍戦争の発端になってしまったのです。神様を信じているというヨーロッパの指導者たちと民たちさえも憎しみにとらわれ隣人への敵対心を燃やしていたのです。どんな赦しも、寛容もなく、ただ自分たちの意志だけが‘神様の御心’だと思い込み、さげびながら、ほかの人たちを殺すための行進をはじめていたのです。

ところが、この十字軍の行列をみながらある若い修道士はこの勇名な予言をしたそうです。“この十字軍戦争はかならず敗北する。憎しみと憎悪の動機からはじまったこの戦争を決して神様が喜ばされることはあり得ない。いくら神様の御心だと自己主張していても、憎しみと敵対心が動機になっているかぎり、神様の祝福をいただくことは決してない。ですから、この戦いはかならず敗北する。”と叫んだこの修道士はそのままじっといられなくなり、自分なりに別の十字軍を作りました。これがあの有名な‘**平和の十字軍**’です！彼らは行列をならんでしずかに進みました。手には剣のかわり、聖書をもって死んで行く敵軍を抱きしめて彼らに謝罪し、助け祈って上げました。この平和の十字軍の指導者であったわかい修道士は戦争場で平和を伝えるために、いつもひざまずいてあの有名なアシシのプランシスコが祈っていた祈りを毎回ささげたそうです。

### 『平和の祈り』

**主よ！わたしを平和の道具にしてください。**

**憎しみのあるところに愛を**

**争いのあるところに和解を**

**分裂には一致を 疑いには信仰を、**

**誤りには真理を 絶望には希望を**

**悲しみには喜びを闇には光をもたらすことができますように。**

**主よ！わたしたちがあれこれ求めることをやめ、**

**かえって、慰められることよりも慰めることを**

**理解されようとするよりも理解することを、**

**愛されようとするよりも愛することを望ませてください。**

**恵みのうちに恵みを受け 赦しのうちに赦され**

**死のうちに永遠に生きるのだから。**

**イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！**

“罪の中いた私にまで、あなたの者を用いて、イエスキリストによる平和の救いの福音を届いて下さり、神の救いを、神の平和を頂けるように導いて下さった神の恵みに心から感謝いたします！どうか主よ、今もなお、激しい争い、大騒ぎ、恐れ、不安、思い煩い、罪の中に苦しんでいる多くの人々のため、私たちをイエスキリストの平和の福音の道具として用いてください。今も神の救いと平和を必要として一人ひとりに、このイエスキリストの福音を分かち合い、届けることが出来るように、我らをキリストの平和の十字軍としてどうぞ用いて下さいますように！救い主イエスキリストの御名によって祈ります。

アーメン!